

平成22年度 福井県立小浜水産高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教務部	授業・考査に真剣に取り組ませる。また、授業・考査を休まないよう指導する。	各考査及び休み明けテスト等の欠席者減少に関する指導については保護者、教職員の評価が高かったが学習習慣の定着に関する評価が低かった。	学習習慣が定着していると思われるクラスの指導方法を手本に習慣の定着を図る。
	普通教科と連携して、基礎学力テストを目標に指導を行う。	基礎学力向上、各種資格取得率向上のための取り組みが課題である。	学習環境を整えるための時間を全クラス統一して設ける。
生徒指導部	欠席・遅刻・早退者の数を減らし、きちんとした身なりをさせ、礼儀正しい行動をとらせる。	容儀等に関する指導については評価が高かったが、共通理解のもと全体での取り組みが課題である。	担任会議などで共通理解ができるよう一層努力する。 身だしなみの大切さを考えさせ、容儀検査や街頭指導で機会を捉え指導する。
	法律・校則・マナーを遵守することによって、問題行動を未然に防ぐ。 教職員による校門指導と校内外の巡回指導。	年間を通して校門指導、校舎内外巡回指導及び考査中の校外巡回指導等が実施され、全体的に評価が高い。	集会やLTで交通安全など命の大切さについて機会を捉え指導する。
	よりよいクラスづくりをする。 充実した部活動。	特定の部活動については新聞等メディアで活躍が取り上げられ評価が高かった。反面、部活動加入率の低さが課題である。	集団活動の意義を考えさせ、クラスの一員であること自覚させ、協力することの楽しさを指導する。 部員数の確保など生徒が満足できる環境づくりを検討する。
進路指導部	希望進路実現のための情報を提供する。	1・2年生と3年生では、進路意識に関する評価に大きな開きがあった。	1・2年生に対する進路LT、進路ガイダンスを充実させ、積極的に進路情報を提供する。
	個に応じた進路指導を行う。 進路先との信頼関係を深めるとともに希望進路先の新規開拓を行う。	希望進路実現のための進路指導について、地道な努力が評価された。	1年生より毎学年、進路個人面談を行う。
	1年次より計画的に指導を行い、自分の将来の生き方、あり方について考えさせる。	1年次からの指導等について、保護者に伝わらない面が評価からうかがえた。	保護者に対して進路行事の案内通知を出す。また、全学年希望者を対象に進路4者面談を実施する。
水産部	広報活動の実施で、地域の要望に応えつつ地域との連携を深める。 地域社会に対する教育活動の公開と体験機会の拡大を図る。	教育活動の公開では出前授業やアマモマーメイドプロジェクト等の評価が高かった。また、新聞等メディアで活動が取り上げられ地域全般に教育内容についての理解が得られた。	地域との連携強化のため、あらゆる機会に教育活動公開の場を設ける。
	時代の変化に対応した教育を推進するため、地域産業界との連携を図る。	インターンシップや3年間の担い手育成プロジェクトを通して、地域産業界との連携がより深まった。	あらゆる職種を対象にインターンシップの実施を検討する。
保健部	各種検診の効果的な実施と事後指導の徹底を図るとともに保健室利用状況や健康観察により、生徒に適切な指導を行う。	生徒の健康管理の推進に関する努力、悩み事相談に対する対処等についての評価が高い。	ST時に実施している健康観察により自分の健康状態を把握させるとともに、LT等で健康管理や規則正しい生活習慣を身に付けることの重要性を指導する。また、悩み事相談についてはLT等の個人面談を利用して対処する。
	生徒保健委員会を中心に日常の清掃活動をきちんと学習環境を整える。	清掃活動や学習環境づくりについての積極的な取り組みについては、評価が高いが、家庭でもゴミの分別や環境問題に対する関心を持たせることが課題である。	常に整った環境での学習を心掛けるよう指導するとともに、ゴミの分別を通しエコ運動の促進や環境問題についても関心を持たせる。
総務部	防火防災訓練の実施。	防災に関する要項や担当部署に関する資料配付が早まり責任者への周知が徹底した。	防災訓練での体験項目等の内容を見直す。
	総会や保護者会の参加率を高める。	保護者に総会や保護者会の案内が確実に届くよう工夫が必要。	興味・関心のある話題や研修などの取り入れを工夫する必要がある。

平成22年度 福井県立小浜水産高等学校 学校関係者評価書

- (問)・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切かどうか。
 - ・その他。

(意見を伺った方)

小浜水産高等学校麗水同窓会会長、地域産業担い手育成プロジェクトコーディネータ

職支援コーディネータ (元小浜水産高等学校校長)

○学習指導

- ・学習習慣を確立するためには、平素の学習環境の基本であるクラスの運営、さらにはメリハリのある学習指導の展開が重要となってくる。学習しやすい雰囲気を出すクラスづくりの中で、生徒の学習意欲を高め、基礎学力の向上や資格取得指導の充実などに取り組む余地があるように思われる。
- ・基礎学力向上のため、学科単位等での取り組みの検討も必要ではないか。

○生徒指導

- ・よりよいクラスづくりの取り組みが、よりよい学習環境づくりや学校生活の充実に繋がるのではないか。
- ・生活行動面で、進級するごとに服装等が乱れる傾向にあるのでは。1年入学時の緊張感をもった状態を継続させる工夫が必要ではないか。
- ・部活動の加入率が向上しない中、ほかに放課後の有効活用を検討すべきではないか。

○進路指導

- ・1、2年生の段階での進路意識を高めるための取り組みが望まれる。
- ・進学、就職何れにしる、汗を流したり手を汚すなど心の持ちようについての学習が辛抱に繋がるのではないか。

○全体 (総括)

- ・学校評価を実施して何年か経過していると思うが、数年来の懸案になっている内容について学校全体で強力に取り組まれることを望む。
- ・多くの項目で成果が見受けられが、更に向上を図るための工夫と全職員体制での取り組みを望む。

○その他

- ・地域の催し物、ボランティア活動等に積極的に参加し、地域に関わることも重要ではないか。